

「新未来「創造」とくしま行革プラン（素案）」の概要

1 これまでの行財政改革の取組み

三位一体改革により厳しい行財政運営を強いられる中、決して縮小均衡に陥ることなく、常に「知恵は地方にあり」との気概をもち「とくしま未来創造プラン」や「財政構造改革基本方針」に沿い、「聖域を設けない」徹底した行財政改革に取り組んできた。

<取組みの成果>

◆人・組織

- ・一般行政部門職員数 ⇒ 3,754人（H15）→3,125人（H27.5）△629人
- ・若者雇用の場の確保として、知事部局新規採用3年連続3桁確保（H24～H26）

一般行政部門職員数は、ほぼ3,000人体制に

◆財政

- ・県債残高（H24末：6,285億円→H28末：5,500億円台）
⇒ 5,460億円程度（H27末見込み）1年前倒して達成

厳しい状況の中でも「財政構造改革基本方針」に基づき着実に健全化

2 新たな改革の必要性

◆「地方創生」の取組み加速

「とくしま回帰」の流れを創出し、「地方創生」を徳島から加速させるため「行動計画」や「総合戦略」の取組みを“拳県一致”で加速

◆不断の財政健全化

国・地方を通じ財政状況は依然厳しく、また、世界経済の情勢も不透明なことから
本県財政の健全化を着実に推進

◆組織・体制の最適化

女性の活躍や組織のスリム化が進む中、限りある体制で最大限の力を発揮できるよう
「人財」の育成強化や多様な働き方を推進

◆喫緊の諸課題への取組み加速

「南海トラフ巨大地震対策」や「経済・雇用対策」など喫緊の課題への取組みを加速化

新たな行革プランの策定へ

3 新たなプランの策定

(1) 改革（新たなプラン）の目的と目指す姿

改革の目的

しなやかでバランスのとれた、
「人」や「組織」が創出する「新次元の行政モデル」で
夢と希望あふれる「徳島の新未来」創造！

改革の目指す姿

県庁の総力を挙げて行政改革に取り組み「産・学・官・金・労・言」が連携し
「課題解決の処方箋・徳島モデル」の創出を加速し、全国に発信することで
「地方創生の旗手・徳島」が日本創成をリード！

(2) 3つの視点と5つの重点項目

3つの視点

- ◆ 「未来志向」で「人」・「財」を育成・活用
- ◆ 「県民目線・現場主義」で「創造力・実行力・発信力」を発揮
- ◆ 「六位一体」で「新次元の行政モデル」を創出

5つの重点項目

I 「新未来」を担う行政体制構築

- ・ 「徳島の強み」を知り「創造力・実行力・発信力」あふれる「人財育成」と、スピード感を備えた新たな組織体制を構築！

II 「着実」な財政構造改革

- ・ 「不断の財政構造改革」で、確かな財政基盤を構築！

III 「『公共』の進化」による付加価値の創造

- ・ 「民間活力の導入」による県民サービスの向上と、更なる協働体制を構築！

IV 「県民目線」の開かれた県政運営

- ・ 行政の「透明性」と「安全性」の向上と、公平・公正な県政運営の推進体制を強化！

V 「未来志向の行政モデル」で日本をリード

- ・ 「ワーク・ライフ・バランス革命」による「創造力・実行力・発信力」の強化で新たな行政モデルを構築！

(3) 計画期間

平成27年度から平成30年度までの「4カ年計画」とする。

(4) プランの進行管理と見直し

「社会経済情勢」の変化や、「県民ニーズ」に的確かつ柔軟に対応するため、年度毎に達成状況を「点検・評価」するなど「進行管理」を行うとともに、状況変化に応じて追加・見直しを実施する「進化する行革プラン」とする。

4 プラン策定のスケジュール

- ◆ 8月 4日 第1回 新未来「創造」とくしま行革プラン推進委員会（骨子案）
- ◆ 8月 5日～28日 パブリックコメント実施
- ◆ 9月 中旬 第2回 新未来「創造」とくしま行革プラン推進委員会
- ◆ 11月 上旬 新未来「創造」とくしま行革プラン策定

